

ぶどうの灰色かび病が多い

～ 発病部位の除去と薬剤散布を徹底してください ～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

6月20日の巡回調査における灰色かび病の発病葉率は、キャンベル・アーリーが1.6%（平年0.1%）、巨峰が0.5%（平年0.0%）、シャインマスカットが0.2%（平年0.0%）でいずれも高かった。また、発病花穂（果房）率はキャンベル・アーリーが6.2%（平年0.1%）、巨峰が2.9%（平年0.1%）でいずれも高く、シャインマスカットが1.5%（平年0%）だった（表-1）。

6月22日に仙台管区气象台から発表された1か月予報によると、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

以上のことから、今後、灰色かび病によるぶどうの葉と果房の被害がさらに拡大すると予想されるため、園地内の発生状況を確認し、以下の耕種的防除と薬剤防除を徹底する必要がある。

表-1 6月中旬の巡回調査における発病葉率と発病花穂(果房)率(%)

| | キャンベル・アーリー | | 巨峰 | | シャインマスカット | |
|------|------------|---------------|------|---------------|-----------|---------------|
| | 発病葉率 | 発病花穂 (果房)率 | 発病葉率 | 発病花穂 (果房)率 | 発病葉率 | 発病花穂 (果房)率 |
| 2023 | 1.6 | 6.2 | 0.5 | 2.9 | 0.2 | 1.5 |
| 平年 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0 |
| 概評 | 多 | 多 | 多 | 多 | 多 | — |

2. 防除対策

1) 耕種的防除

- ・花冠、不受精果などの花器残さは成熟果への伝染源となるので、果粒肥大前(袋かけ前)に払い落とす。
- ・発病花穂(図-1)や発病葉(図-2)のほか、落葉や芽かきした枝葉も伝染源となるので、摘み取り後、焼却処分又は土中埋没する。
- ・風や降雹等により損傷した新梢や花穂では本病が発生しやすいので、そのまま放置せず取り除き、園外に持ち出し処分する。

2) 薬剤による防除

- ・表-2に示す防除薬剤を参考にして薬剤散布を行う。
- ・薬剤の散布間隔は、10日程度とする。
- ・オーソサイド水和剤80以外の薬剤で、同一RACコードの薬剤の使用は年1回に限定する。また、同一RACコードの薬剤は連用しない。
- ・袋かけ前の散布は果房への散布むらがないよう注意し、散布後は速やかに袋かけ作業を行う。
- ・笠かけや袋かけは薬剤の散布後7日以内に行い、7月中旬までには終える。やむを得ず7日以上空ける場合は、笠かけや袋かけの前に追加散布をする。

表-2 ぶどう灰色かび病の防除薬剤

| RACコード | 薬剤名 | 希釈倍数 | 使用回数 | 各成分の使用回数 | 散布時期 |
|--------|-------------|-------|------|----------|--------------------|
| 3 | オンリーワンフロアブル | 2000倍 | 3回以内 | 3 | 落花7日後～7月中旬 |
| M4 | オーソサイド水和剤80 | 1000倍 | 3回以内 | 3 | 6月上旬～7月中旬(本剤は収-30) |
| 19 | ポリオキシシAL水溶剤 | 5000倍 | 5回以内 | ア | 落花7日後～7月上旬(幼果期) |
| 19・M7 | ポリベリン水和剤 | 800倍 | 2回以内 | アイ | |
| 17 | パスワード顆粒水和剤 | 1500倍 | 2回以内 | 2 | 6月下旬以降 |
| 17 | ピクシオDF | 2000倍 | 3回以内 | 3 | |

RACコード

3:DMI剤 17:KRI剤 19:ポリオキシシ剤 M4:フタルイミド剤 M7:ピスグアニジン剤

各成分の使用回数

ア:ポリオキシシ(5回以内) イ:イミノクタジン酢酸塩(3回以内(休眠期は1回以内、生育期は2回以内))



図-1 灰色かび病の発病花穂
(キャンベル・アーリー)



図-2 灰色かび病の発病葉
(キャンベル・アーリー)

【 問合せ先 】

| | | |
|-----------|---|--------------|
| 秋田県病害虫防除所 | TEL | 018-881-3660 |
| 秋田県果樹試験場 | TEL | 0182-25-4224 |
| 天王分場班 | TEL | 018-878-2251 |
| 掲載HP | https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/ | |